

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 口 甲口保	第 468 号	氏 名	川原 博雄
	乙 口 乙口保 口 修			
審査委員	主 査 湯本 浩通 副 査 市川 哲雄 副 査 日野出 大輔			

題 目

Risk Factors for Tooth Loss in Patients Undergoing Mid-Long-Term Maintenance:
A Retrospective Study

(中長期的なメンテナンスを受けている患者の歯の喪失の危険因子：後ろ向き研究)

要 旨

メンテナンスにより歯の喪失が減少することが報告されているが、歯の喪失に影響を及ぼす要因に関しては、確定的な結論は得られていない。本研究の目的は、中長期間のメンテナンスを受けている患者を対象として、歯の喪失の危険因子を検討することである。

組み入れ基準は、2015年1月から2016年12月の2年間に川原歯科医院を来院した患者、2016年末で5年以上のメンテナンスを受けている患者、メンテナンス開始時年齢が40歳から69歳までとした。除外基準は、インプラント治療を受けた患者、無歯顎患者とした。最終的に対象患者は674人（男性:265人（平均年齢54.6±8.0歳）、女性:409人（平均年齢54.0±7.9歳））であった。

収集したデータは、患者のコンプライアンス、性別、メンテナンス中に失われた歯数、歯の喪失原因（う蝕、歯周病、歯根破折、その他）、喪失歯の状態（生活歯/失活歯）、メンテナンス開始時の年齢、メンテナンス開始時の残存歯数、メンテナンス開始時の喫煙、メンテナンス開始時の唾液分泌抑制剤の使用、メンテナンス開始時の糖尿病の存在、メンテナンス開始時の歯周病による骨喪失の状態、およびメンテナンス開始時の可撤性義歯の使用であった。

う蝕と歯周病がコントロールされたメンテナンス下では、喪失歯のほとんどが失活歯であり、歯の喪失の最も一般的な原因は歯根破折であった。また、歯の喪失に関する統計的に有意な危険因子は、メンテナンス開始時の残存歯数であった。

本研究から、失活歯が少なく、残存歯数が多い時期からのメンテナンス開始が患者の利益に繋がることが示された。以上より、本研究は歯科医学の発展に寄与するものと期待でき、本論文は博士（歯学）の学位授与に値すると判定した。